

あいあいあい

I eye 愛

2025 年
8 月号



6/20 第37回通常総代会

第37回総代会 そして2030年ビジョンへの前進

理事長 高橋 千佳

第37回通常総代会において、すべての議案を可決承認頂きました。昨年の総代会で生協運営の課題、理事会内の統制力の弱さに対するご指摘を受けてから丸一年。改善を図る中で総代の皆様から厳しいご意見を頂くこともありましたが、その根底には「組合員にとってなくてはならないあいコープの存続を願う気持ち」があるのだと気づき、感謝の気持ちを持って耳を傾けてきました。不安、怒り、心配など様々な感情を抱かせてしまったことを反省し、残る課題にも真摯に取り組み、信頼される理事会を築いて参ります。総代会では総代の皆さんからその場で生の声を頂く時間をしっかり設け、精一杯の答弁をさせて頂きました。生活協同組合という土台の上で繋がる総代の皆様のご協力があればこそ、私たちは前進できるのです。

総代会でご説明した通り、養豚飼料（子実コーン）の国産化への取り組みが7月いよいよスタートしました。養豚の飼料は大部分を輸入に頼っている日本ですが、これを国産で賄う事で資源循環型の農畜産業の発展に繋がります。先進的なあいコープの一步が後に続き、世の中に広がるように、しっかりとこの事業を確立させて頂きます。

総代会では、セットセンターの老朽化、狭小化についてもご報告いたしました。建設当初想定した最大供給高である30億円を超えたことから、商品が溢れ、職員やみんなの輪の皆様にとって快適な職場環境とは言えません。設備の不具合も頻発しており、供給を止めずに施設改善することが求められます。理事会では、設備投資に向けてどのような方法があるか議論を続けています。この件については、総代の皆様に諮るための臨時総代会を開催する前に、説明会を計画しております。

今年度は2025年ビジョンの最終年度になります。この5年間で振り返り、課題を抽出し、次期ビジョン策定に活かす実行委員会を結成しました。平和と人権・食と農、環境問題に至るまで課題が山積している現状を見据え、私たちの生協運動が未来を変え、信じ、生産者と職員、組合員が繋がる力を発揮して進んで参ります。

CONTENTS

- ▶ 第37回通常総代会 ……2
- ▶ 組合員に米を届けたい！生協と産地の想い ……4-5
- ▶ 魚プロ認証商品確認会 ……6
- ▶ 「香りの害ってなんだろう？」学習会報告 ……7
- ▶ 生産者さんにあいに行こう「奥羽乳業」 ……8
- ▶ 日の出町センターは今 ……3

第37回 通常総代会

6月20日(金)、エル・パーク仙台にてあいこーぷみやぎ 第37回通常総代会が開催され、理事会から提起された全4議案が可決承認されました。

〈採決結果〉

議案	反対	保留	賛成	結果
第1号議案 2024年度活動・事業報告、決算及び剰余金処分案の承認の件	13	18	108	可決
第2号議案 2025年度活動・事業方針・計画及び予算の決定の件	13	15	111	可決
第3号議案 役員報酬限度額決定の件	15	22	102	可決
第4号議案 役員退任慰労金支給額決定の件	4	13	122	可決

※総定数 160 名中、採決参加人数 139 名(書面、代理人を含む)

理事会から議案が一括提起された後、審議には11名の総代が発言に立ちました。商品政策や情報発信に対する要望が出される一方で、剰余金処分案に関連して組合員への還元のある方を問う意見や、一人あたり利用額の減少に危機感を持ち、理事会は組合員に利用結果をもっと呼び掛けていくべきといった生協運動の本質に関わる発言も多くあり、約1時間の審議中、参加者は真剣に耳を傾けました。

また、期の途中ではありませんが、いつもの組織体制強化のため、理事の中から副理事長を選任したことが報告されました。

生協の最高意思決定機関である総代会の議論と採決結果を理事会は重く受け止めて、これから1年間の事業と活動に活かして参ります。

■副理事長着任あいさつ

この度、理事会にて副理事長に選任されました石井朱里です。理事になって丸3年が経ちましたが、特に昨年総代会からの一年間は「協同の力」担当として、総代懇談会の開催や組織体制の課題解決に取り組んで参りました。理事としてまだまだ経験不足ではありますが、様々なことを勉強しながら、より良い組織作りのため力を尽くしていきます。組合員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。



高橋千佳理事長の挨拶

7/8 ビジョン検討委員会開催

第1回目のテーマは「つながり(人)」

5か年計画で進めてきた「あいこーぷみやぎ2025年ビジョン」の取り組みを総括し、次の中期ビジョンを描く「ビジョン検討会」が開始しました。

第1回目のテーマは「つながり(人)」。

ジョイケアシステムを通じて組合員同士のたすけ合いや地域の福祉法人みんなの輪との協業、そして平和と人権が主な項目です。理事会だけでなく組合員・職員・生産者がしっかりと意見を交わせる場になるよう、生産者団体である共生会の幹事会にも声をかけ、



グループワークの様子

この日は3名の生産者を含む21名が集まりました。

項目ごとのグループワークと全体討論の組み合わせで約2時間、みっちり意見出しを行い、参加者からは「ジョイケアシステムの目的や理念をもっと啓発していく必要があるのでは」「みんなの輪とは上から目線の支援ではなく協業関係ができてきており、他生協からの関心も高い」「戦争前夜のようだからこそ協同の力を大事にしたい」といった声がありました。

次回8/8の検討会では、今回の総括を「人」分野の次期中期ビジョンに反映させていきます。

ビジョン委員会では、中期ビジョンに関する組合員の皆さんの意見や要望を随時募集しています。裏表紙のQRコードからフォームにて受付けます。ぜひ声を寄せてください。

副理事長 石井 朱里

組合員と職員のため 施設改善待ったなし！

～日の出町センターのいま～

6月に行われた通常総代会と、それに向けた議案書説明会で、総代の皆様にあいこープが新しく配送センター（仮）を持つ計画について説明いたしました。あいこープ日の出町センター（宮城野区日の出町）は老朽化と狭小化で多くの課題を抱えています。

20年前に建てられたこの日の出町センターは、商品倉庫と配送ターミナルとして、毎日生産者からの荷を受け入れ、仕分けして組合員へ送り出してきました。今では組合員の増加に伴い荷量が増え、入荷口は商品であふれ、センター内も大きな荷物を持つてスムーズにすれ違うことができないなど、仕事の効率に影響しています。高く積み重ねた荷物は見通しを遮り、働く職員は危険を感じることもあります。



通路が見えないほどに商品が積まれた日の出町センターのフロア



トラックが増え、積み下ろし時に屋根のある場所につけられないことも…

商品の保管をする冷蔵・冷凍庫や箱詰めを使うコンベアなど、設備の老朽化も深刻で、故障など数々のピンチに遭遇する度に職員の努力でなんとか乗り越え、滞らずに毎日のお届けをしている状況です。労働環境の観点からも、改善が求められます。

この先もしっかりと商品をお届けするため、現在、理事と現場職員による検討チームを結成し定例で議論を進めています。あいこープは設備投資の為に準備金を少しずつ蓄えてきました。それを資金の一部として、費用と機能のバランスの取れた計画を立てようと頑張っています。進捗は随時報告して参ります。

理事 鈴木 真奈美

仙台芭蕉菜のたねをつなごう

かつて仙台で広く食されていた「仙台芭蕉菜」を知っていますか？仙台芭蕉菜とは、元々は東京都荒川区周辺で育てられていた「三河島菜」が参勤交代で仙台に持ち込まれ、根付いたものと言われています。和種ナタネ類の仲間です。辛みが少なく、漬物にすると美味しい作物ですが作る人が減っているのが現状です。秋保ゆうきの会では毎年、この貴重な在来作物を育ててたねを採り、絶やさないように繋いでいく活動をしています。

7/6（日）、秋保ビジターセンターに約30名が集まり、秋保ゆうきの会の渡辺さんの指導で芭蕉菜のたね採りを行い、宮城の在



乾燥させた鞘を棒でトントン叩き、1ミリほどの小さなたねを取り出しました



秋保ゆうきの会や参加者が提供してくれた16種類のたねが「たねBOX」の仲間入り！

来作物についてのお話を聞きました。講師にお迎えした「みやぎ在来作物研究会」会長で野菜ソムリエ上級プロの川島洋子さんのお話で宮城にもたくさんさんの在来作物があることがわかりました。が、どれも作り手が減り危機的状況になっているそうです。

最後にたねの交換会が行われ、全国を回っている「たねBOX※」からたねをいただき、皆さんが持参したたねと交換しました。

たね採りは手間とコストがかかりますが、貴重な種を絶やさず、に次世代に繋いでいく為にできることを考えていきたいです。

理事 高橋 あゆみ

※たねBOX：静岡県富士宮市でシードバンク活動をしている「seed おじさん」と鈴木一正さんが企画した、市民がたねの交換をするための素敵な箱。

いのちの米 あなたの適正価格は？ 令和の米騒動から あいコープの米を考える

令和の米騒動と呼ばれる需要の混乱。あいコープも産直米を組合員に届けられない状況が続いています。生協と生産者は米を組合員に届けるためにどんな努力をしてきたのか、あいコープ商品部と生産者にお話を伺いました。

■まんま通信から米が消えた

あいあいあい編集部呼びかけに応じてくれた、七郷クローバーズファームの細谷滋紀さんと大郷グリーンファーマーズの西塚忠樹さん。あいコープからは吉武悠里常務と商品部の高橋翔課長を加え、対談がスタートです。

まずは、まんま通信にお米が掲載できない今の状況についてのお話。吉武常務から「主食が届けられないことは組合員さんへの影響が大きすぎる。特に長年買い支えてきた皆さんには、申し訳なく辛い」と胸の内が吐露されました。市場価格が定まらない中、あいコープには価格決定からカタログ印刷のタイムラグを経て組合員の手に届くという、宅配生協ならではの弱点がありました。結果的に、異常とも思える高額をつけた市場の米に対し、あいコープの産直米は常識的な価格に。これに対し注文が殺到し、市場の品薄感に危機感を持った組合員の登録米申し込みも6割増しになり、早期に欠品する要因となったそうです。生産者のお二人も「9月とか新米供給を目前にしての不足ならわかるけど1月中旬からなんて経験がない」「24年産の新米の出はじめから、これは欠品になるな」

■産直米の価格設定の難しさ

産直米のあいコープへの納入価格は、生産者と協議し独自で決定します。JAの概算金(※)の変動に沿って多少の上げ下げを行うものの、あいコープでは再生産可能な金額を1俵2万円、2万2千円と定め、概算金が下落したときもその基準を崩さずに来ました。そもそもあいコープの産直米は余らせないことを一番に考え供給してきたんだと、全員が力説します。スーパーの米の価格と開きすぎず、生産者に正當な対価を払い、しかも余らせずに売り切るのは「神業」。「売れないようにセーブするなんてしたことがなかったよね」と、生産者のお二人も苦笑い。「我々

生産者があいコープ基準(トライ・アイズ等)で丹精込めて育てたことに付加価値を感じて、組合員さんに利用してもらったのに、そのこと(栽培基準)を価格の議論に反映させにくい、今はおかしい事態です」と細谷さん。今年はそんな混乱の中、互いに真剣に話し合った結果、例年より高額の取引となりました。資材も高騰する今、その金額が適正なのか否かは、また今年もじっくり話し合っていくとお話でした。

(※)概算金：農協などが農家から米を集荷する際に、事前に支払うお金。米価の指標となり、農家の資金繰りを助ける役割もある。

■年間登録米は最高の制度

政府の出す状況指数の精度の低さが問題視され報道されていますが、西塚さん、細谷さんも24年は反収が30キロ、60キロ少なかったと証言します。新米が市場に出る時の価格を決定するために、収穫前の田んぼを見て「このくらいだろう」と収量を予測するわけですが、現実の収量や歩留まりにずれが生じると価格と需要が噛み合わず品薄になるのだそうです。

あいコープには、生産者と約束した量の米を余らせず組合員で食べるために、年間契約でしかも自動更新の『登

録米』システムがあります。もし余剰が出ればまんま通信に掲載し(時には特売しても)食べ切る仕組みです。あいコープの年間登録米は登録募集の段階では暫定価格で組合員に案内します。そして実際収穫してから最終的な価格を決め、一度決めたらその価格で年間通してお届けするのです。この仕組みは生産者にとって安心できるものですが、やはり組合員にとっても生産者にとっても、登録米はありがたい制度なのだ改めて思いました。

■食糧の価値をどう考えるか

そんなあいコープ自慢の登録米ですが、今年度は指定銘柄をお届けできなかったり、今秋の新規登録を増やせるか、懸命に産地と協議しているという高橋課長。「抽選になるかもしれませんが少しでも増やしたいです」と真剣です。

(右)はさま自然村との稲選手権準備
(下)田植えを終えた七郷
トライ田んぼ



(左)大郷ふゆ水田んぼの活動
(下)大郷グリーンファーマーズの
有機田んぼで記念撮影



そんな中、組合員の農業への関心は高まっていると感じます。今年は産地での農産体験への申し込みが驚くほど増えました。毎月田んぼへ行き、生産者と一緒に米作りをする体験を通して、私たちは現場を学んでいます。「生産者さんは汗水たらして大変！頭が下がります」で終わってはいけません。子供たち、孫たちの時代まで、生産者が主食である米を作り続けられる値段をつけ、それを支払って対等に生きていくこと、そんな社会を作っていくことが、生協の在る意味です。

平成5年の米騒動の時、やはり同じように登録米の申し込みが殺到しました。困った生協を助けようと各地の生産者が何トンもの米を融通してくれたと言います。しかし世の中に米が戻ると登録は解除され、助けてくれた生産者を支えることができなくなってしまう苦い経験から、今あいコープはより真剣に米と、生産者と向き合っています。

す。価格に翻弄されたその時限りの買物ではなく、生産者の生活を丸ごと支える「取り引きではなく取り組み」の精神で、生産者と長く付き合いたい。今回の米騒動での学びを忘れず、産地が豊作でも不作でも、この先ずっと登録米で食べていくことが当たり前の組合員を増やそうと、この対談から感じました。登録米が増えれば、生産者は安心してあいコープのための作付けを増やすことができ、その結果組合員は安定して食べ続けることができるのです。

あいコープを通じ、生産者との約束で作られた産直米は、高いですか？安いのですか？

(文責：理事 鈴木 真奈美)



(左から)西塚忠樹さん、細谷滋紀さん、吉武常務、高橋課長

冗談を言い合いながらも、価格決定の時はしっかり意見を戦わせたエピソードを聞くことができました。



生産者に挨拶する吉武常務(右)

6/21 飼料用コーン生産者(涌谷町)の交流会にあいコープが参加

私たちの産直豚の安全安心とおいしさ、更なる付加価値を高めていくだけでなく、食料自給率向上と循環型社会の実現を目的とした飼料用輸入コーンの国産化プロジェクト。生産～流通～利用と少しずつ見えてきた道ですが、過去に例のない取り組みに不安を抱く生産者も少なくありません。そんな中、実際に顔を合わせて言葉を交わし「ともにこのプロジェクトを進めていく」というあいコープの意思表示ができ、生産者の安心感、モチベーションのアップにつながったと感じています。この場にあいコープが関わったことはとても意義のあることだと考えます。今後ぜひご注目ください。

商品部食肉加工課 課長 辻井 知弘



6/23 あいコープふくしま第39回総代会

あいコープふくしまの総代会に、あいコープみやぎ理事が参加してきました。あいコープふくしまは、同じ「まんま通信」で商品を提供し、理念を共有し合う大切な仲間です。議案提案があったのち、組合員から次々と手が上がりたくさんの発言がありました。「5年に渡ってお願いし続けた会津コースが実現しあいコープ生活ができるようになった」、「訪問した営業職員が気の毒で、ちょっとのつもりで加入したけど、もはやあいコープなしでは暮らせない」など、あいコープ愛あふれる発言に皆さん笑ったり頷いたり。笑顔があふれた総代会でした。

理事 櫻井 洋子



あいコープから2名が来賓参加

わだいの
たねまき





あいコープ自慢の認証商品がズラリ！

「魚プロ」認証を食べて確認！ 試食会を開催しました



魚食プロジェクトでは、2020年から産地・品質・美味しさにこだわった商品に「魚プロ」マークをつけて魚プロ認証商品としておすすめしています。

最近では三陸の海で熱帯の魚が獲れることもあり、海の環境も変わりつつあります。天然の資源であるお魚の変化が生産者の皆さんに仕様変更を余儀なくさせているということはないのでしょうか？そもそも魚の味に変化などが起きていないのでしょうか？

5年の年月が経ち、魚プロ認証商品を再確認することで改めて認証商品の良さを広めたい。もっと魚プロマークの意匠を伝えたい。今年度の魚プロメンバーの目標です。

→「魚プロ」のマークが
目印です♪



試食の様子

そこで、お魚好きの確認会モニターを募集し、モニター2名・魚プロメンバー3名・魚プロ担当職員1名の計6名による魚プロ認証確認会を6月26日に行いました。今回は丹野商店の甘塩紅鮭と紅鮭切り身（山漬け）、間宮商店の近海マサバふくら酒汐干し、高橋徳治商店のおとうふ揚げ、丸壽阿部商店の宮城県唐桑産わかめ、この5商品です。原材料・製法・香り・食感・食べやすさ・調理しやすさに注目して試食、満足度3点として5名により点数化、結果全ての商品で11～15点の高得点となりました。感想の共有も含め満場一致で今回の商品は認証継続となりました！

皆さんはあいコープのお魚をどれくらい購入していますか？迷ったらぜひ魚プロ認証マークのついた商品を探してみてください。

理事 佐藤 有子

月刊 P B
8月号

今回は、おなじみタンポポ村さんの「ギョウザ」「シウマイ」「生ベーコン」の原材料が少くだけ変わりましたよ、という話題です。



試食では遜色なし！

7月4回のまんま通信ウラ表紙でもご紹介していますが、この3商品に使用されてきた三温糖が、製造元の都合により仕様変更（具体的に「カラメル色素Ⅰ」が添加）となりました。カラメル色素Ⅰは、あいコープのPB商品の添加物基準で使用が認められているものではありませんが、原材料表示に「カラメル色素」が加わるのはどうも：というタンポポ村さんの意向により、砂糖を「花見糖」に切り替えることになりました。

商品部と、食と農委員会での試食では、違いが判らないか「むしろ美味しくなった？」との意見も。食べてみての感想などは、れんらくカードやコールセンターを通してご連絡ください（「美味しくなったね！」というご連絡も大変うれしいです）。

副理事長 石井 朱里

理事会議事録抄

2025年7月1日（火）

▼第37回通常総代会議事録を承認した▼日の出町センターのエアコン交換計画案を承認した▼理事に対する業務災害補償見直し案を承認した▼役員退任慰労金支給額について確認した▼役員報酬規則の一部変更を承認した▼2025年度役員報酬額を承認した▼新センター計画に伴う買付証明書提出を承認した▼シヤボン玉フォーラムおおいの参加費補助について承認した▼生産者への緊急融資を承認した。

組織概要

(2025年6月分)

【組合員数】	19,757名
【供給高】	256,958千円
【一人実利用高】	5,918/週
【出資金】	1,396,131千円



●日本は貧乏で心が貧しい国だなあと改めて感じました。食べるものに困らず家族と共に過ごすことができる環境に感謝して自分にできることをしていこうと思いました。（「アフガニスタンの支援活動を通して気づいたこと」参加者感想）

始めよう！緩けよう！ 石けん生活

7月17日 石けん環境委員会
「香りの害って何だろっ」
現代の公害を考える」

被害者にも加害者にもなりたくない

日本消費者連盟・洗剤部会や香害をなくす連絡会、新潟大学非常勤講師など幅広く活動されている平賀典子さんを講師にお迎えし、会場とオンラインで計25名が参加しました。

香害とは、柔軟剤、消臭除菌スプレー、制汗剤、芳香剤、合成洗剤などの強い香りを伴う製品(化学物質)による健康被害のことで、香りの好き嫌いが原因ではありません。今回は香害の問題点を教えて頂きました。

テレビCMの多さにより、使用が当たり前のように思われている合成洗剤と柔軟剤ですが、合成洗剤だけではゴワゴワになってしまったため、柔軟剤とセットで使用されています。そこに含まれる香料は複合化学物質でできているものが多く、毒性や危険性があるものも含まれますが



講師はオンラインで講演



講師の平賀さん

日本では香料としか表示されないそうです。香りの持続目的で香料を包むマイクロカプセルがはじけ、肉眼では見えない状態で空気中に漂っていたり、公共交通機関の椅子などに付着していたりする写真も見せて頂きました。マイクロカプセルは気管支や肺にまで達してしまい、胎盤や血液、母乳、脳など体内からも検出されているとのこと。抗菌洗剤や柔軟剤を使うと洗えば洗うほど、環境に多くの影響を与えているそうです。除菌消臭剤を使っているスプレーしても汚れは落とせず、また臭ってしまうことも聞きました。

私たちは合成洗剤や柔軟剤などを使わなくても、石けん(重曹や酸素系漂白剤なども含む)を使って洗うことで、香りでごまかさずにきれいにできます。

自分が使っているもので誰かを苦しめないよう、この学習会を通してより多くの方にこの問題を知っていただきたいと感じました。

理事 佐藤 あきな



私のオススメ商品



私のお勧めは「米粉のあんパン」です。もちりとした米粉の生地で北海道産の小豆を使用した練りあんを包み、優しい甘さのあんこがすっきりとしていて、つつい手が伸びてしまいます。小ぶりなサイズのため、朝ごはんやおやつにぴったりの商品です。そのまま食べるのはもちろん、トースターで軽く火を通してもちがりとして美味しいです。おなじみのパスちゃん牛乳と併せて食べるのが個人的におすすめです。まだ食べたことがない方は是非お試しください。

事業部 供給課 佐藤 怜

編集後記

日頃寄せられる組合員からの問い合わせに丁寧な答え、時には苦情の電話も受けているであろうコールセンターの皆さんに感謝して、理事会メンバーからねぎらいの贈り物をしました。商品のことからイベント(活動)のことまで、あいコープの窓口として活躍してくれています。詰め合わせたあいコープ商品を見て歓喜の声を上げてくださって、こちらも嬉しい気持ちに。一息ついてこれからは笑顔(笑声)で組合員に安心を届けてください。

理事 鈴木 真奈美

委員さん募集中！

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email i-kumikatsu@mamma.coop
(担当：組合員事務局 鈴木・木田代)



組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00～17:00

年金相談・・・9/9(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30～15:30

法律相談・・・9/10(水)、9/17(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30～15:30

子ども相談・・・9/25(木) 宮城教育大学准教授 特別支援教育専攻 三科聡子氏
10:00～12:00

*介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター・木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア利用状況 (2025年6月分)

ささえあい(保障)	1件	(動物被害による商品への補償)
たすけあい(ケア)	9件	(ケア時間 合計13時間)
集団託児	3件	(利用延べ人数 3名)
慶弔	13件	(出産祝い4件 お悔やみ9件)
電話相談	14件	(キャンセル除く相談実施件数)
計	40件	



● 種取り作業がとても楽しかったです。在来作物の歴史、今も大事につないでいてくれる農家さんに感謝の気持ちが伝わると嬉しいです。1粒の種が何十倍にも増える植物の力に感動しました。(仙台芭蕉菜イベント参加者)

生産者 さんに あい に行こう！58

奥羽乳業株式会社 の巻



「放牧パスちゃん牛乳」



「放牧パスちゃん牛乳」

放牧牛の新鮮な生乳 100%

シンプル＆プレミアムな牛乳を組合員で飲み干そう！

あいコープのために用意された放牧酪農の生乳を、パスチャライズ殺菌(75℃15秒)した特別な牛乳。共同購入だから実現できる低価格で届く、山形の自然の恵みです。

放牧牛が群れて草を食む「飯豊かなめやま牧場」で絞られ、ローリーに詰められた生乳は山形県河北町の奥羽乳業に運ばれます。2013年、この放牧酪農牛乳の産直を始めるために、あいコープ専用に設置されたタンク容量は5トン。つまり、1リットルの牛乳が1日に約5000本作れる計算になります。しかし現在組合員が注文するのは平均1日1300本。せっかくの「専用生乳」を組合員で利用し切れていない課題があります。

厳重な分別管理が行われ、日本初の放牧酪農認証を得たこの特別な生乳は、余れば他の様々な牧場の生乳と混ぜられ、市販品に姿を変えてしまいます。私たちが、素性の明らかなパスちゃん牛乳を選び購入することを組合をあげて行わなければ、放牧酪農とこの組合員価格は守れません。



製造レーンを流れるパスちゃん牛乳



翌日の出荷を待ち発酵中の「放牧パスちゃんプレーンヨーグルト」



専用タンクは5トン×2本
バルブに「パスちゃん牛乳専用」の札が

75℃15秒のパスチャライズ殺菌で安全な牛乳を届けるには、加熱前に遠心分離で雑菌を取り除く工程が必要です。高温殺菌牛乳と比べると、時間だけでなくそのひと手間のために生産効率が落ちます。パスちゃん牛乳には、幸せな放牧牛のお乳をより自然に近い形でいただくための、奥羽乳業さんの丁寧な仕事に詰まっています。

また、工場の中では同じ生乳を使った「放牧パスちゃんプレーンヨーグルト」も作られています。ヨーグルト用に殺菌した生乳に乳酸菌を植菌し、発酵の温度管理に神経を尖らせる様子には、「職人」を感じました。牛乳とヨーグルトでこの生乳をいただき尽くしましょう！



奥羽乳業株式会社 荒木 章吾さん (株)飯豊かなめやま牧場 卯野 祐一さん
奥羽乳業株式会社 井内 亮さん

パスちゃん牛乳を製造している奥羽乳業株式会社です。ここ数年、何度も牛乳の値上げがある中、変わらずご愛顧いただきありがとうございます。

パスちゃん牛乳は飯豊かなめやま牧場の放牧酪農生乳のみを使用し、その生乳をパスチャライズ殺菌した貴重な牛乳です。そんなパスちゃん牛乳を「飲んでてよかった、もっと飲みたい、飲んでみたい」と思えるような情報を発信していければと考えています。

今年度も Wa! わあ祭りに参加させていただく予定です。ぜひ奥羽乳業のブースまで足をお運びいただき、みなさまと交流できればと思います。

今後とも安心してご利用いただくためにもより品質にこだわり安全な製品をお届けできるよう努めてまいります。

今後の予定

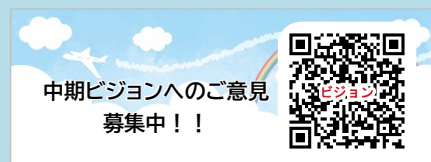
9/4 木

ジョイケア主催
「じゃれつき遊び」

場所/宮城野区中央市民センター 和室
時間/10:00~12:00
参加費/無料 定員/親子 15 組
申込み締め切り/8月15日(金)



イベントへの
申し込みは
HP から♪



中期ビジョンへのご意見
募集中!!

9/15 月

食と農委員会主催
天童果実同志会 りんご園地見学ツアー

場所/天童果実同志会園地(山形県天童市)
時間/仙台駅9:00 出発~16:30 解散予定
参加費/大人 3000 円他 ※詳細はチラシをご覧ください

あいコープみやぎは女川原発の稼働停止と核燃料の乾式貯蔵施設建設中止を求めます

女川原発の 再・再稼働から

2024年10月29日再稼働し
不具合による停止を経て11月
13日に再稼働しています

263 日目

停止を
早く

2025年8月4日現在